古文単語 活用形から見出し語へ ①

高校／波線の語を手がかりに、本文の形を引ける形にもどす

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

――線の語を、見出し語（終止形）にもどし、右の3つの枠に、左から順に見出し語・活用の種類・活用形を書きなさい。
――線の語のすぐ下に続く語に、波線（〜〜）が引いてあります。この語を手がかりに活用形を決めます。
活用の種類は行まで書きます（例：動詞ナ行四段活用）。枠には2行に分けて書いてもかまいません。

	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
形容詞ク活用	く・から	く・かり	し	き・かる	けれ	かれ
形容詞シク活用	しく・しから	しく・しかり	し	しき・しかる	しけれ	しかれ
形容動詞ナリ活用	なら	なり・に	なり	なる	なれ	なれ
動詞四段活用	ア段	イ段	ウ段	ウ段	エ段	エ段

形容詞の連用形「く・しく」は、「て」などの前で「う・しう」になることがある（ウ音便）。

1 「内侍所の御鈴の音は、めでたく優なるものなり。」
（徒然草・第二十三段）

見出し語	活用の種類	活用形

2 この国の博士どもの書けるものも、いにしへのは、あはれなる事多かり。（徒然草・第十三段）

見出し語	活用の種類	活用形

3 「あの男こち寄れ」と召しければ、かしこまりて、勾欄のつらに参りたりければ、……（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

4 はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方がた、めざましきものにおとしめ嫉みたまふ。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

5 南面に下ろして、母君も、とみにえものものたまはず。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

6 ともに行く人々も、いといみじく物ゆかしげなるはいとほしけれど、物見て何にかはせむ。（更級日記）

見出し語	活用の種類	活用形

7 たやすくうち出でむも如何とためらひけるを、……
（徒然草・第二百三十一段）

見出し語	活用の種類	活用形

8 木の葉にうづもるる筧の雫ならでは、つゆおとなふものなし。（徒然草・第十一段）

見出し語	活用の種類	活用形

9 このごろの御気色を見たてまつる上人、女房などは、かたはらいたしと聞きけり。（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

10 あやしくよそへきこえつべき心地なむする。
（源氏物語・桐壺）

見出し語	活用の種類	活用形

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます